

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あいうえおん		
○保護者評価実施期間	R8年1月5日		～ R8年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	R8年1月5日		～ R8年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○訪問先施設評価実施期間	R7年12月18日		～ R8年1月30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月6日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こども理解	<ul style="list-style-type: none"> 多職種での訪問体制や専門的知見に基づき、こどもの特性やニーズに沿った支援を実施している。 放課後等デイサービスでの様子を踏まえ、学校現場で実践可能な具体的助言を行っている。 保護者や学校から「困りごとが軽減された」「自信を持って学習に取り組めるようになった」と高く評価していただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> こどもの特性や課題に応じた支援内容をさらに具体化するため、行動観察や評価の記録を体系化し、共有できる仕組みを強化する。 支援計画の作成時に、放課後等デイサービスや家庭での取り組みの成果を定期的に振り返り、計画に反映する。
2	学校・保護者との連携・情報共有の丁寧さ	<ul style="list-style-type: none"> 面談や電話、記録の活用で、こどもの状況や支援内容を適切に共有している。 訪問支援前後の打ち合わせや学期末会議により、支援内容を柔軟に調整している。 保護者、学校双方から「とても助かっている」「相談しやすい」と評価していただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校・家庭・放デイ間の情報共有をさらに推進し、タイムリーな情報伝達を図る。 定期的な振り返り会議を実施し、学校・家庭双方からのフィードバックを計画に反映する仕組みを強化する。
3	こどもや保護者に寄り添う姿勢と信頼関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> 支援前後の情報交換や面談で共感的対応を重視している。 丁寧な助言、相談対応、こどもの意欲や成長を引き出す支援を心がけている。 「こどもの意欲的な取り組みにつながった」との声をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や学校との面談・連絡の機会を増やし、こどもの意欲や課題の変化をいち早く把握できる体制を強化する。 支援員の共感的対応スキルや関わり方の研修を継続的に実施し、寄り添う支援の質をさらに向上させる。 こどもが自己表現しやすい環境づくりや安心して取り組める場を増やし、信頼関係を深める取り組みを展開する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問頻度や支援時間の柔軟性	<ul style="list-style-type: none"> 学校や保護者の意向に沿って支援の頻度や時間を決定しているが、こどもや学校の状況によっては、「毎週来てほしい」「1限目にきてほしい」など、より柔軟な対応が求められる場面もあった。月の利用日数や営業時間の関係で対応が難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 制度上および事業所体制上の制約がある中で、対応可能な範囲を明確にし、学校・保護者と丁寧に関わり調整を行いながら、支援の質を高める工夫を継続していく。
2	訪問支援員の人材確保・配置体制	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数の増加に伴い、訪問支援員の確保や適切な配置が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存職員への研修や多職種連携による効率的な支援体制を強化し、配置の柔軟性を確保する。
3			